

企画展観覧料金 () 内は団体料金

一般 200円 (140円) | 小・中学生 100円 (70円)

1974年2月、フィルム・ライブラリー協議会(当時)の川喜多かしこと岩波ホール総支配人の高野悦子氏により、「世界の埋もれた名画を発掘・上映する」運動を発足。「エキブ・ド・シネマ」(フランス語で「映画の仲間」の意)と名付けました。岩波ホールを拠点として、第一回上映作品はインド映画の巨匠サタジット・レイ監督『大樹のうた』から始まり、今年で40年を迎えます。「エキブ・ド・シネマ」の活動は、単館ロードショー、ミニシアターの先駆けとなり、今日までたくさんの会員とスタッフ、映画人・著名人に愛されて支えられ、昨年2月9日に高野さんが逝去された際には、日本のみならず世界中の「映画の仲間」が駆けつけ、弔意を表しました。



エキブ100本目の上映を記念して(中央)高野悦子氏(1989年)

本企画展では、これまで上映されてきた作品のポスターや劇場パンフレットの数々をご覧いただき、映画を通してひらく世界の扉へと、今あらためてご案内いたします。この機会にぜひご堪能ください。



【équipe de cinéma の活動とは?】

- ①アジア、アフリカ、中南米など日本で上映される機会の少ない国々の映画の紹介
- ②欧米の映画でも大手興行会社に取り上げない名作の紹介
- ③映画史上の名作であっても、なんらかの理由で上映されなかった作品の紹介
- ④日本映画の名作を世に出す手伝い

4つの目標を掲げてスタートしたエキブ運動は、これまでの映画興行にはみられなかった日本で初となるさまざまな試みを行い、広く世界の芸術・文化、社会に生きる人々を紹介。80年代中盤には、そうした小さな規模でも良質な作品を上映するミニシアターの活動が全国に広がり、一大ブームを巻き起こす。エキブ会員は発足後すぐに3000人に達し、現在もほぼ同数を維持。多くの人に支えられ、活動を継続している。

←展示ポスターの一部 全210作品登場!

協力:岩波ホール、小笠原正勝

特別映画鑑賞料金 ※提示もあわせてご観いただけます。一般 1000円 / 小・中学生 500円 (記念館窓口、鳥森書店(鎌倉店)、たらば書房にてチケット販売)

宋家の三姉妹 上映日:2月4日(火)~6日(木)

チケット発売 1月18日(土)



145分/カラー/1997年/35mm 香港-日本 監督:メイベル・チャン
出演:マギー・チャン、ミシェル・ヨー、ヴィヴィアン・ウー

2回上映 2月4日 午前10時30分 午後2時	1回上映 2月5日 午後2時	1回上映 2月6日 午後2時
----------------------------------	----------------------	----------------------

辛亥革命、西安事件、日中戦争…激動の時代を生きた華麗なる三姉妹の物語は、岩波ホールで歴代一位のロングラン、延べ314日上映された。4000点を超える鉤欄な衣裳は「乱」でアカデミー賞を受賞したワダエミ氏による。

冬の小鳥 上映日:2月7日(金)~9日(日)

8日は音声ガイド付上映 チケット発売 1月18日(土)



© 2009 Copyright DCG Plus & NOW Films, GLORIA Films. All Rights Reserved

92分/カラー/2009年/35mm 韓国-仏 監督:ウニー・ルコント
出演:キム・セロム、パク・ドヨン ★東京国際映画祭『アジアの風韻門』最優秀アジア映画賞

2回上映 2月7日 午前10時30分 午後2時	1回上映 2月8日 午後2時	1回上映 2月9日 午後2時
----------------------------------	----------------------	----------------------

1975年ソウル郊外、父親に置き去りにされた事実を受け入れられない少女の物語。自身も養子として韓国から渡仏した経験をもつ監督の処女長編。世界的に好評を得た本作は「カイエデュ・シネマ」誌で、ボネ・ジュノ監督の「2000年代最高の1本」に選出された。

映画鑑賞券のご提示で企画展もご覧いただけます。販売枚数に達した場合、当日券の販売はございません。

特別映画鑑賞料金

映画鑑賞券のご提示で企画展もご覧いただけます。販売枚数に達した場合、当日券の販売はございません。

一般 1000円 | 小・中学生 500円 (記念館窓口、鳥森書店(鎌倉店)、たらば書房にてチケット販売)

嗚呼 満蒙開拓団 上映日:2月14日(金)15日(土)

1日2回上映 チケット発売 1月18日(土)



120分/カラー/2008年/DVD 日本 演出:羽田潔子

満州事変以降、日本政府の国策によって旧満洲に送りこまれた満蒙開拓団。自らも旧満洲に生まれた羽田監督が、中国政府が黒竜江省方正県に建立した日本人公墓の墓参りツアーに同行。当時を知る人々の貴重な証言を通し、今なお続く満蒙開拓団の悲劇を明らかにしたドキュメンタリー。

2回上映 2月14日 午前10時30分 午後2時	2回上映 2月15日 午前10時30分 午後2時
-----------------------------------	-----------------------------------

八月の鯨 上映日:2月18日(火)~20日(木)

チケット発売 1月18日(土)



© 1988 Alive Film, Inc. and Orion Pictures Corporation. All Right Reserved

91分/カラー/1987年/35mm 米国 監督:リンゼイ・アンダーソン

出演:リリアン・ギッシュ、ベティ・デイヴィス ★カンヌ映画祭特別賞

2回上映 2月18日 午前10時30分 午後2時	1回上映 2月19日 午後2時	1回上映 2月20日 午後2時
-----------------------------------	-----------------------	-----------------------

ハリウッド映画史に名を刻むリリアン・ギッシュとベティ・デイヴィスの初共演。二大女優が老姉妹を演じ、人生の衰微を描く。公開時は連日満席を重ね、31週上映で岩波ホール歴代二位の動員を記録。

コルチャック先生 上映日:2月21日(金)~23日(日)

22日は10時30分上映 チケット発売 1月18日(土)



118分/白黒/1990年/ブルーレイ オランダ-西独-仏 監督:アンジェイ・ワイダ
出演:ヴォイテク・ブジョニャック、エヴァ・ダウコフスカ

2回上映 2月21日 午前10時30分 午後2時	1回上映 2月22日 午後2時から トークイベント	1回上映 2月23日 午後2時
-----------------------------------	------------------------------------	-----------------------

世界初の小児科医で児童文学者としても名高いポーランドの伝説的ユダヤ人、ヤヌシュ・コルチャックの生涯を描いた名作。ワイダはこの作品の映画化を二十余年の構想の後に実現させた。

秋のソナタ 上映日:2月25日(火)~27日(木)

チケット発売 1月18日(土)



© 1978 AB Svensk Filmindustri

92分/カラー/1978年/ブルーレイ 初エディション 監督:イングマール・ベルイマン
出演:イングリッド・バーグマン、リヴ・ウルマン

スウェーデンの生んだ世界的巨匠ベルイマンと、同国出身でハリウッドのスター女優となったバーグマン。本作でバーグマンは自身も生涯最高と認める演技を披露し、批評家からも絶賛された。

2回上映 2月25日 午前10時30分 午後2時	1回上映 2月26日 午後2時	1回上映 2月27日 午後2時
-----------------------------------	-----------------------	-----------------------

旅芸人の記録 上映日:2月28日(金)~3月2日(日)

1日1回上映 チケット発売 1月18日(土)



232分/カラー/1975年/35mm ギリシャ 監督:テオ・アングロプロス

出演:エヴァ・コタマニドゥ、ペトロス・ザルカディス ★カンヌ映画祭国際批評家大賞

1回上映 2月28日 午後0時30分	1回上映 3月1日 午後0時30分	1回上映 3月2日 午後0時30分
--------------------------	-------------------------	-------------------------

一昨年交通事故で急逝した名匠アングロプロスの代表作。古代神話のエレクトラやオレスティスが、旅芸人となって愛と復讐のドラマを展開し、一座は現代ギリシャの歴史と風景を横断する。

ルートヴィヒ 上映日:3月4日(火)~6日(木)

1日1回上映 チケット発売 2月15日(土)



© 1972 MEGA FILM-CINETEL-DIETER GEISLER-FILMPRODUKTION-DIVINA FILM

237分/カラー/1972年/35mm 伊-西独-仏 監督:ルキノ・ヴィスコンティ
出演:ヘルムート・バーガー、ロミー・シュナイダー

1回上映 3月4日 午後0時30分	1回上映 3月5日 午後0時30分	1回上映 3月6日 午後0時30分
-------------------------	-------------------------	-------------------------

「ベニスに死す」以降、日本で公開されなくなっていたヴィスコンティ作品の人氣が再燃したのは、エキブでの評判からだった。78年の「家族の肖像」に始まり、本作も80年に初公開。

劇・音の不具合箇所により場合によって上映素材の変更がありますことをご了承ください。